# 京大広報

No. 601　2005. 5

## 目次

〈大学の動き〉
新入生向けガイダンスの実施……1922
〈部局の動き〉
化学研究所附属先端ビームナノ科学センターレーザー科学棟竣工記念見学会・祝賀会の開催……1922
医学部附属病院に総合臨床教育・研修センターを設置……1923
地球環境学堂がベトナムに教育研究拠点を開設……1923
畠山重篤氏，C.W.ニコル氏を“社会連携教授”に迎える……1924
〈寸言〉
あの先生の一言　岡田武彦……1925
〈随想〉
退職に思う　ー多くの恵みに導かれてー　名誉教授　山﨑　稔……1926
〈洛書〉
地域へのまなざし・地域からのまなざし　前平泰志……1927
〈栄誉〉
加藤和也教授が恩賜賞・日本学士院賞を，中村卓史教授が日本学士院賞を受賞　勝又直也助教授，望月新一教授が日本学士院学術奨励賞を受賞……1928
長尾　真前総長，竹市雅俊客員教授が日本国際賞を受賞……1930
木村健二教授が文部科学大臣表彰科学技術賞（研究部門）を，4名の教員が若手科学者賞を受賞……1931
成宮　周教授が紫綬褒章を受章……1932
〈日誌〉……1933
〈訃報〉……1934
〈話題〉
京都大学附置研究所シンポジウムを開催……1935
人文科学研究所が第1回「TOKYO漢籍SEMINAR」を開催……1935
高等教育研究開発推進センター「第11回大学教育研究フォーラム」の開催……1936
第1回京都大学・大阪大学合同イベントー大学が変わるみんなで変えるーの開催…1937
医学部附属病院で「看護師が自ら看護服をデザインし着用」……1938
〈公開講座〉
法学研究科21世紀COEプログラム連続市民公開講座……1938
〈お知らせ〉
上海センター・シンポジウム　日中間の“政令経熱”をどう打開するか……1939
大学院生のための教育実践講座ー大学でどう教えるかー……1939
平成17年度創立記念行事音楽会の開催……1940
〈編集後記〉……1940

第1回京都大学・大阪大学合同イベント
ー大学が変わる　みんなで変えるー
ー関連記事　本文1937ページー

京都大学広報委員会
http://www.kyoto-u.ac.jp/

特にこの１～２年はベトナムの衛生対策および廃棄物管理に関する研究に重点を置いて取り組むことを紹介し，香川公使から京都大学の当地での活動への期待等の言葉があった。VASTのMinh総裁からは，今後の活動への期待と共同研究の推進に対する謝辞が述べられた。

多くのベトナムの研究者との交流を深め，共同してベトナムの衛生対策および廃棄物管理に関する研究を実施することによって，京都大学およびVASTのより活発な交流へと発展し，ベトナム教育研究拠点から多くの研究成果が発信されることを期待している。

前列左2人目から　Dong所長，Minh総裁，香川公使，松井教授

（大学院地球環境学堂）

## 畠山重篤氏，C.W.ニコル氏を“社会連携教授”に迎える

フィールド科学教育研究センター（フィールド研）は，日本の国土の根幹をなす森と川と海の本来のつながりの再生を通じて，地球環境問題解決のブレークスルーとなり得る新しい統合学問領域「森里海連環学」の創生に向かって，多様な取り組みを進めてきた。それらの中で，自ら森と海のつながりの再生を目指した森づくりを進め，世論形成にすでに大きな力を発揮されている先人との共通認識の形成や今後の相互協力の合意を得ることとなった。

これらの社会的連携を，さらに効果的に教育・研究・社会貢献へ結びつけるために，“森は海の恋人運動”を展開されている宮城県気仙沼の漁師畠山重篤氏（牡蛎の森を慕う会代表）と長野県信濃町に“アファンの森”を築き，日本の美しい自然の危機と保全を訴え続けておられる作家C.W.ニコル氏に，3月1日ならびに4月1日付で，京都大学フィールド科学教育研究センター「社会連携教授」（非常勤）に就任いただいた。これにより，東北地方と中部地方に新たな教育研究拠点を持つこととなり，森里海連環学の全国展開に道を開くこととなった。

両教授には，フィールド研の全学共通教育の講義の一部を担っていただくとともに，豊かな自然を再生しつつある室根山－大川－気仙沼湾ならびに黒姫山ろくのアファンの森を舞台に，ポケットセミナーや森里海連環学の実習を開くことを計画している。自らの考えを行動に移し，社会を動かす賢人に接すること，そしてその舞台となる豊かな自然環境に触れることは学生各々の“原体験”として，かけがえのない教育効果を持つものと期待される。さらに，研究面では森里海連環学の市民参加型研究を二つのフィールドで継続的に展開することを計画している。社会連携教授は，フィールド研が目指す新しい学問領域の開拓にとって不可欠の存在であり，学問と社会を結びつける上で大きな役割を担っていただけるものと期待している。

（フィールド科学教育研究センター）

畠山ご夫妻（中央）を囲んで

田中センター長から辞令を受けるC.W.ニコル氏